



私は二つの外国との友好議員連盟(通称、議連)の相談役をしている。アフリカのルワンダとカリブ海のドミニカだ。友好議連とは相手先の外国を応援する日本の国会議員を組織化したもので、政治レベルでの交流を活発に行うためのものだ。

4月中旬は、二つの議連の議連総会が相次いで行われた。昨年12月に総選挙があり国会議員の顔ぶれが変わったが、4月上旬までは新年度の国家予算審議で議員の先生方は忙しかったので、それが一段落してから、と

いうタイミングだ。

ドミニカ議連は超党派でなく自民党議連だ。会長をしていただいたの大野功統・元防衛庁長官は前回選挙で引退したため自民党の教育再生本部長の遠藤利明先生に会長をお願いした。

## カリブ中南米の将来

### 影響力強いドミニカ大統領

駐日ドミニカ大使のベルヘスさんは新しい議連の布陣に満足だ。新会長の遠藤先生とは、遠藤先生の地元・山形に遊びに行くような間柄だからだ。

大使は、なるべく早く遠藤会長に、ドミニカ大統領のダニー

ロ・メディナさんに会ってほしいと言つ。それも、おとなしい大使にしては珍しく力説するのだ。不思議に思い、その理由を聞いたところ、意外な答えが返ってきた。

大使が言つには、今、カリブ

エラ大統領が亡くなり、キューバのカストロも今年87歳になる。カストロは引退後の今でもカリブ中南米のカリスマで、圧倒的な影響力がある。

大使は言つ。「イタル。カストロ後のカリブ中南米を想像してみろ。一気に国際政治情勢は変わる。アメリカも中国も動く。ドミニカは中国とではなく台湾と国交がある。だから、今、日本の政治家がダニーロと会つておくのは重要なのだ」と。想像したこともないことを示唆され、私も、急にいろいろ考え始めた。

(石井 至)

中南米で影響力が強い政治家は、エクアドルのコレア大統領と、ドミニカのダニーロの2人だと言つ。2人とも国内での支持率が約8割と高く、任期がたつぷりとあり、また十分若い。今年3月にチャベス・ベネズ

いしい・いたる 石井兄弟 社長、観光立国推進有識者会議メンバー